Human-Rights Communication

岡富中ホームページでバックナンバーを公開中！

延岡市立岡富中学校

じんけん通信

第８号
（通算１６号）
2019 年
11 月 6 日

【文責】
人権・同和教育
担当：長友伸二

「多文化共生」が見えたラグビーW杯

準々決勝、南アフリカに敗れた日本代表のワンシーン。
（HP「Getty」より）

日本で初めて開催されたラグビーW杯は2日、南アフリカの優勝で幕を閉じました。最初はどうなることかと不安視された今大会。しかし、そこには私たちを熱くするプレーと、国を越えた「多文化共生」の姿が待っていました。

海外から称賛された大会

日本代表・通称「桜ジャパン」は、16人の日本人選手と6か国15人の外国出身選手によって構成されています。

ラグビーは、外国籍の選手でも、〈両親または祖父母のうち1人が日本出身〉、あるいは〈日本に3年以上の継続居住〉などの条件を満たしていれば、日本代表として試合に出場することができます。そんな31人が「ワンチーム」になるためには、さまざまなしかけがありました。

外国出身選手にとって、その国の代表として選ばれることはサクセス・ストーリーの一つ。代表としての意識と誇りをもつために、外国出身選手たちは、日本の文化や歴史について猛勉強をしたそうです。

チーム内の共通語は日本語。当然、言葉の壁にぶつかる選手がいます。そこで、リーチ・マイケル主将が「チーム愛が深まるから」と声をかけて勝利の歌を作らせました。『カントリー・ロード』の替え歌、その名も『ビクトリー・ロード』。W杯の控え室でも歌われていました。

一方、日本のラグビーファンの行動が海外から注目を集めました。

対ロシア戦後、客席のごみ拾いをする日本人。この様子をSNSで発信した海外ファンがいました。「誰もが日本人から学ぶことがある」とツイートし、多くの反響が寄せられたそうです。

サッカーW杯でも見られましたね。
（Twitter より）

相手を尊重すること

対ロシア戦後、マイケル主将は、相手チームの控え室を訪ねました。ロシア選手の健闘をたたえ、記念品を渡すためです。

模造刀を渡したそうです。（Twitter より）

世界のラグビーを統括するワールドラグビーが掲げる「ラグビー憲章」には、5つの大切な理念が記されています。「情熱」「品位」「規律」「結束」そして「尊重」。相手や異文化を尊重すること――今大会の試合後、各国の選手が日本式の「お辞儀」で挨拶していることにも、それは表れています。

この大会が見せてくれたのはまさに「多文化共生」そのものでした。来年の東京オリンピック・パラリンピックにつなげていきたい「心」ですね。

（HP「THE ANSWER」他、新聞各紙の記事を参考に構成）

※多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと。

２０１９年度第８号

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年　　組／お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（ペンネームでも O.K. ですよ！）

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？（　○　・　×　）